

高卒者調査速報版

「高校卒業後の生活と意識に関するアンケート」調査 にご協力いただいた皆様へ

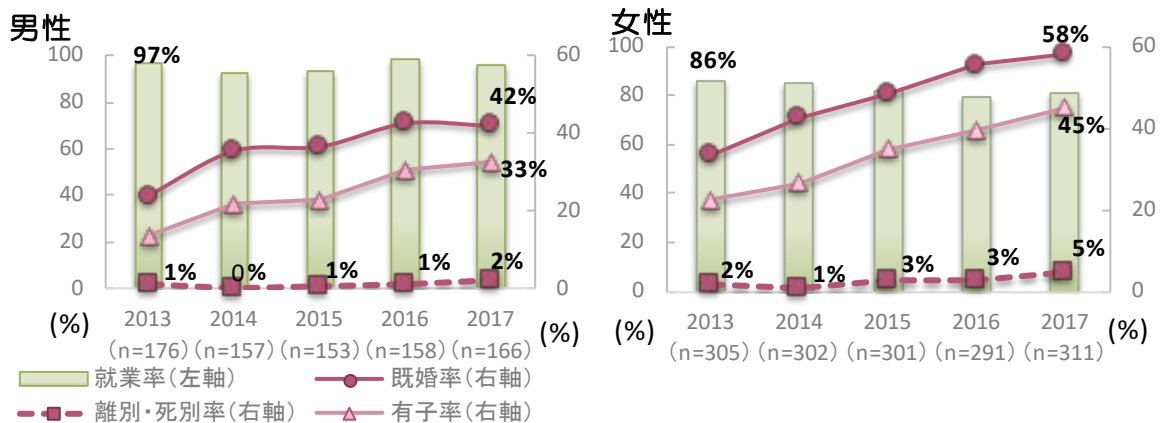
昨年の秋には、第13回「高校卒業後の生活と意識に関するアンケート」調査にご協力いただき、ありがとうございました。490名（調査時の年齢：31～32歳）の皆様から貴重なご回答をお寄せいただきましたこと、大変有り難く思っております。

遅くなりましたが、昨年度の調査結果の一部をお届けいたします。今回は、皆様の日頃の暮らし、政治に対するご意見、学校で身につけたスキルに注目してまとめました。また、下記のサイトでは、より詳しい調査結果をご覧ください。ご高覧いただければ幸いです。

<http://csrda.iss.u-tokyo.ac.jp/panel/dp/>

皆様が高校3年生の時に協力いただいてから続けて参りました本調査も、今年でついに15回目となりました。積み上がった調査結果に皆様の15年間の苦楽が詰まっていると思うと、身の引き締まる思いがいたします。皆様の長年にわたるご支援に心より感謝申し上げますとともに、本年の調査にも何卒ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

1. 2013年以降の生活状況の推移



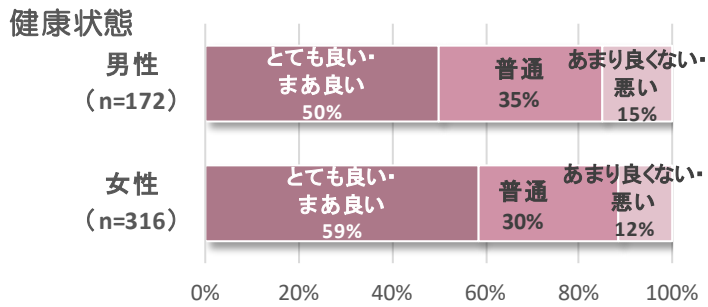
男性の家族形成の勢いはひと段落か 男女とも、配偶者との離別・死別者が微増傾向

2013年から2017年までの5年間の、就業者、既婚者、離別・死別者、子どもがいる人の割合を、男女別にグラフにしました。

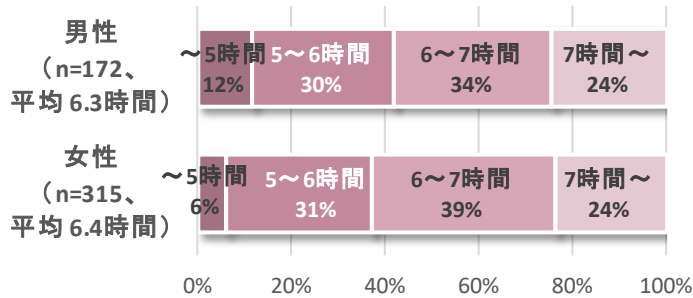
男性の就業率は、微増減を繰り返しながら90%以上で推移しています。また、男性の既婚者の割合、および子どもがいる人の割合の上昇は、一旦落ち着いたように見えます。他方、女性に関しては、既婚者の割合と子どもがいる人の割合の増加が続いており、その影響か、就業者の割合は80%程度にまで減少してきています。

また、男女とも、配偶者と離別・死別したと答える人の割合がわずかながら増加してきており、家族の形態の多様化が進みつつあることがわかります。

2. 健康と睡眠



1日の平均睡眠時間



※無回答を除いて集計しているため、上下でnが異なる場合があります。

健康に問題を感じない人が多数派だが
7時間以上眠れている人は4人に1人

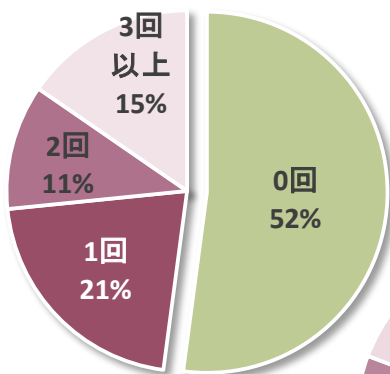
ご自身の健康状態について評価してもらったところ、「とても良い」「まあ良い」の割合は男女ともに半数以上でした。「普通」の人と合わせると、8割以上の方が健康状態に大きな問題を感じていないことがわかります。

一方、1日の睡眠時間の平均は男女ともに6.3時間程度で、7時間以上睡眠時間を取っている人は4人に1人未満でした。日々忙しく活動する回答者の皆様の様子が垣間見える結果となりました。

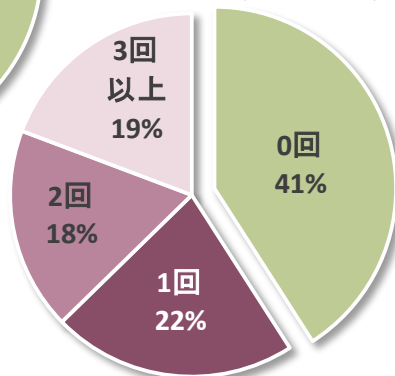
3. 転職経験

男女別 これまでに経験した転職の回数

男性 (n=169)



女性 (n=314)



転職未経験者は男性5割、女性4割
複数回の転職も珍しくない

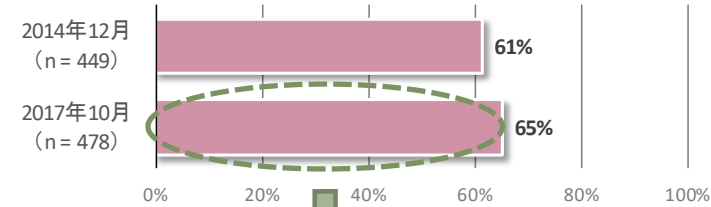
対象者にこれまでの転職経験について回答してもらいました。転職経験のない人(0回)の割合をみると、男性は52%、女性は41%で、女性では転職経験のない人の方が少数派になっています。

さらに、これまでに転職をした回数をみると、男女とも1回が20%を上回り、転職した人の中では最も多数派となっています。しかし3回以上転職したと答えた人も、男女で2割近くに上ります。中には10回以上転職をしている人もいて、仕事を変えながらキャリアを歩んでいく道のりが決して珍しいものではないことがわかりました。

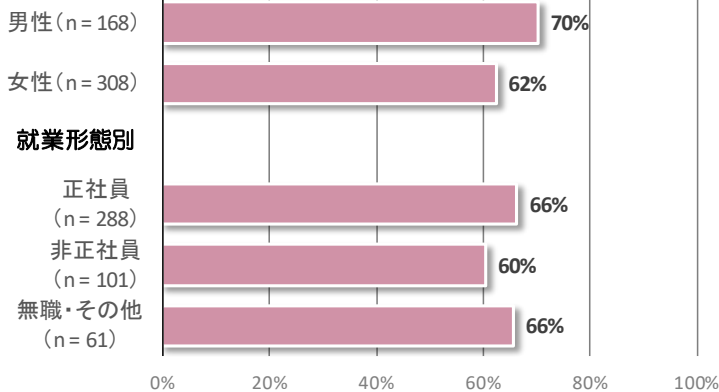
4. 選挙と政治に対する姿勢

2017年衆議院議員総選挙 投票に行ったかどうか

衆議院議員総選挙で投票に行った人の割合



男女別



※それぞれの問いで無回答を除いて集計しているため、上下で合計人数が異なることがあります。

対象者の投票率は高水準を維持 政治への関心の大きさが際立つ

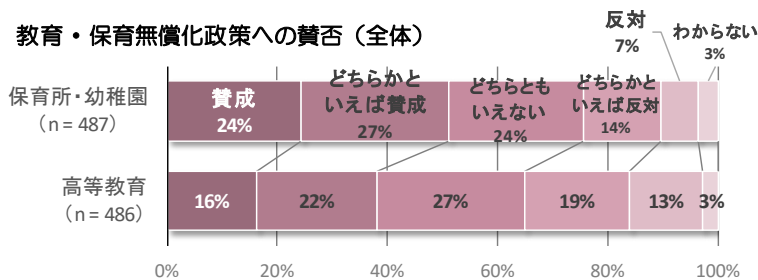
2017年10月に行われた衆議院議員総選挙では、全国の投票率は20代 33.9%、30代 44.8%と、全世代の投票率 53.7%と比べて低い値でした。

一方、本調査の対象者で投票に行った人の割合は65%を超えており、政治に対する積極的な姿勢がうかがえます。2014年12月の衆議院議員総選挙でも投票に行った人の割合は61%に上っており(全国の投票率 52.7%)、投票に行く人の割合は高い水準で推移しています。

男女別・就業形態別など属性別に見ても、多少の違いこそあれ、それぞれ高い割合を示していることがわかります。

教育・保育政策への賛否と結婚・子育て

教育・保育無償化政策への賛否 (全体)



保育・教育の無償化は 子どもがいる人で賛成が多い

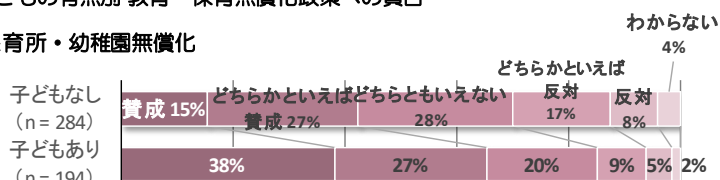
保育・教育の無償化政策について、賛否の割合をみました。

保育所・幼稚園の無償化には約半数が賛成ですが、大学など高等教育の無償化は賛成の割合が約4割に下がります。また、いずれも「どちらともいえない」と答える人が約4分の1を占めます。

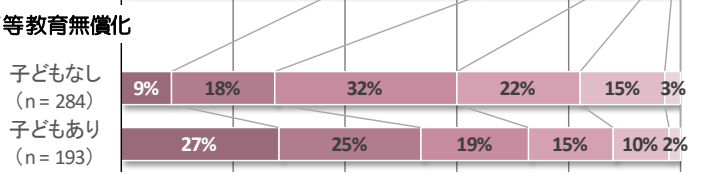
子どもの有無で比較すると、子どもがいる人はいない人比べて「どちらともいえない」の割合が小さく、賛成の割合が大きく増加しています。やはり子どもがいるの方が、保育・教育の無償化を支持しやすいようです。

子どもの有無別 教育・保育無償化政策への賛否

保育所・幼稚園無償化



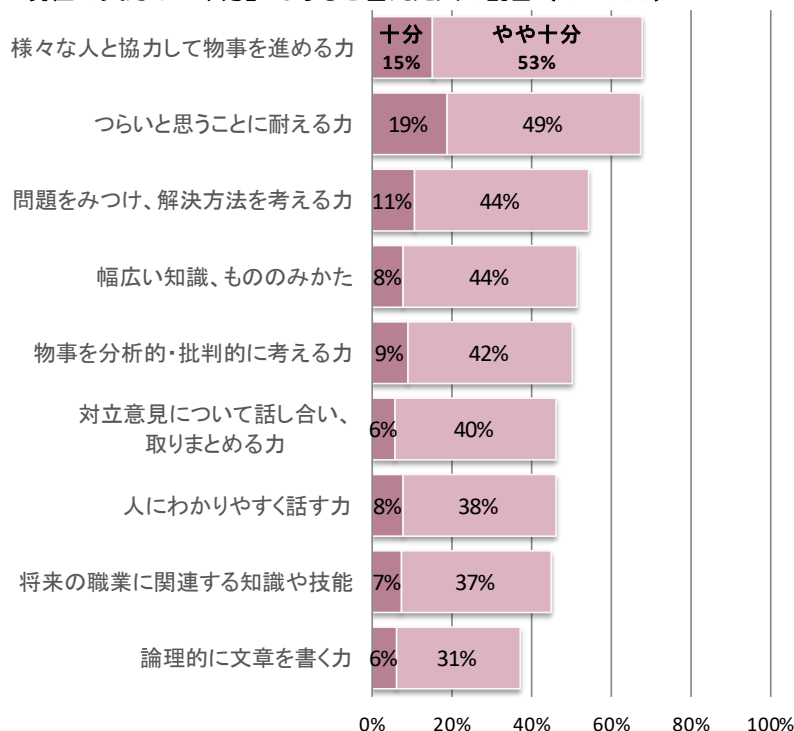
高等教育無償化



※それぞれの問いで無回答を除いて集計しているため、上下でnや合計人数が異なることがあります。

5. 学校経験を通じて身についた能力と、現在の能力

現在の実力が「十分」であると答えた人の割合 (n = 455)



実感されやすい

「様々な人と協力して物事を進める力」

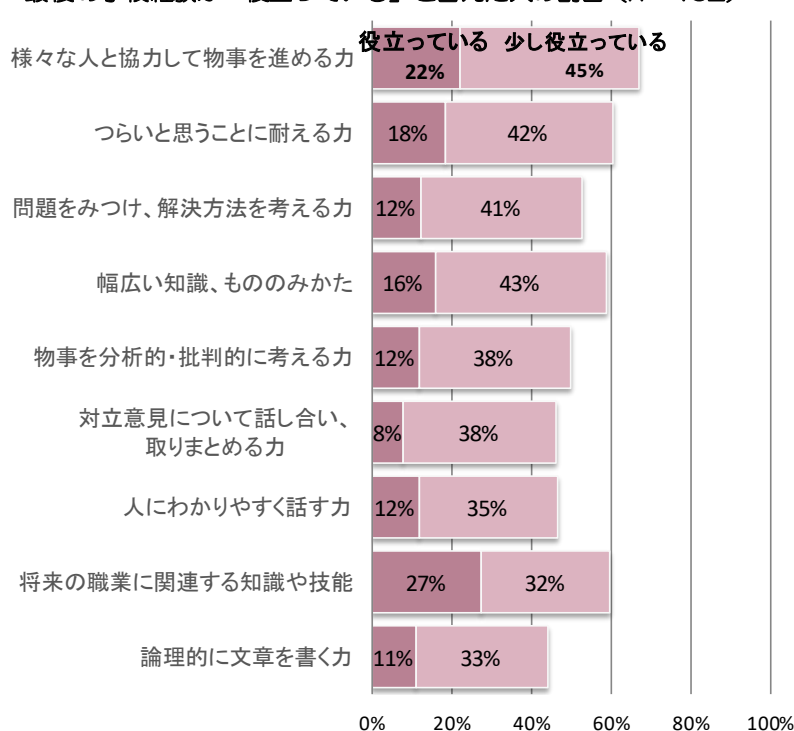
実感されにくい

「論理的に文章を書く力」

現在の実力が十分であると実感される能力について尋ねました。現在の実力が「十分」「やや十分」と答えた人の割合をみると(左上グラフ)、「様々な人と協力して物事を進める力」や「つらいと思うことに耐える力」などが、現在十分な能力として挙げられることがわかります。

一方、「論理的に文章を書く力」や「将来の職業に関連する知識や技能」、「人にわかりやすく話す力」などは、現在十分な実力があると感じられる人が比較的に少ないようです。

最後の学校経験が「役立っている」と答えた人の割合 (n = 462)



また、学校経験を通じて身についた能力についても尋ねました。最後に通った(通っている)学校での経験が「役立っている」「少し役立っている」と答えた人の割合をみると(左下グラフ)、上位には「様々な人と協力して物事を進める力」や「つらいと思うことに耐える力」などが、下位には「論理的に文章を書く力」や「対立意見について話し合い、取りまとめる力」、「人にわかりやすく話す力」などが挙げられました。

以上の結果から、「論理的に文章を書く」などの技術・スキルよりも「様々な人と協力して物事を進める」といった態度・コミュニケーションにかかわる能力の方が、現在「十分」な能力としても、学校経験が「役立っている」能力としても、実感されやすいことがうかがえます。

※無回答を除いて集計しているため、上下でnが異なります。